

## くすりのしおり

620002023  
2011年2月改訂

薬には効果(ベネフィット)だけでなく副作用(リスク)があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力がが必要です。

### 商品名：カロナール錠200

主成分：アセトアミノフェン (Acetaminophen)

剤形：白色の錠剤、直径10.0mm、厚さ3.3mm

シート記載：SD112、カロナール200、200mg



### この薬の作用と効果について

中枢において痛みに関与しているプロスタグランジンという物質が体内で作られるのを抑えることにより、痛みをやわらげます。また、体温調節中枢に直接作用して熱放散を増大させて熱を下げます。

通常、頭痛、腰痛、歯痛、変形性関節症などの鎮痛、急性上気道炎、小児科領域の解熱・鎮痛などに用いられます。

### 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。消化性潰瘍、血液疾患、肝障害、腎障害、心機能不全、喘息または既往歴
- 妊娠または授乳中
- 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

### 用法・用量（この薬の使い方）

- **あなたの用法・用量は** (医療担当者記入)

- **頭痛、腰痛、歯痛、変形性関節症などの鎮痛**：通常、成人は1回1.5～5錠（主成分として300～1,000mg）を服用し、服用間隔は4～6時間以上とします。1日総量として20錠（4,000mg）を限度とされます。空腹時の服用は避けてください。  
**急性上気道炎**：通常、成人は1回1.5～2.5錠（主成分として300～500mg）を頓用します。原則として1日2回まで、1日最大7.5錠（1,500mg）を限度とされます。空腹時の服用は避けてください。
- **小児科領域における解熱・鎮痛**：通常、幼児および小児は1回体重1kgあたり主成分として10～15mgを服用し、服用間隔は4～6時間以上とします。1日総量として60mg/kgを限度とされます。ただし、成人用量（1回最大用量は主成分として500mg、1日最大用量は1,500mg）を超えることはありません。空腹時の服用は避けてください。本剤は1錠中に主成分200mgを含有しています。いずれの場合も、治療を受ける疾患や年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- 飲み忘れた場合はできるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合（4時間以内）は、忘れた分は飲まずに、次の飲む時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

### 生活上の注意

- 飲酒はこの薬の副作用を起こしやすくする恐れがありますので、服用中の飲酒は控えてください。

### この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、過敏症（発疹）、嘔吐、食欲不振、血小板機能低下（出血時間の延長）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 息苦しい、全身の発赤、蕁麻疹[ショック、アナフィラキシー様症状]
- 高熱が出る、皮膚や粘膜に発疹・水疱ができる、眼が充血する[中毒性表皮壊死融解症・皮膚粘膜眼症候群]
- 苦しさ、喘鳴（ヒューヒュー音）[喘息発作の誘発]
- けん怠感、食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる[肝機能障害・黄疸]
- のどの痛み、発熱[顆粒球減少症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

### 保管方法その他

- 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

### 医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。